

言葉があり、空間があり、音楽があり、身体がある——。

舞台芸術は総合芸術です。ただし一口に舞台芸術といっても、日本には能・歌舞伎・文楽といった伝統芸能もあれば、近代化とともに輸入されて以降、時代にに応じてさまざまな技術や才能を生み出してきた現代演劇もあります。

「観劇観能エクステンジ・プログラム」は、能楽と現代演劇の舞台をどちらも鑑賞することで、両者の相違点と共通点を見出し、総合的に舞台作品を見る方法を参加者が体得することによって、観劇の楽しみを発見することを目的としたプログラムです。



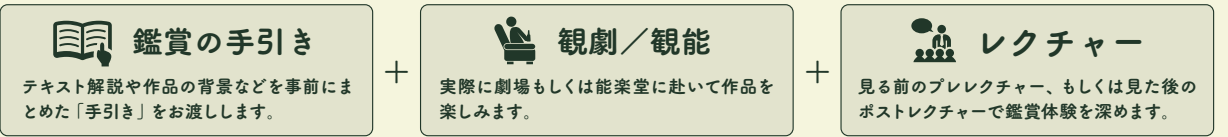
T.T.T.2013 (撮影:大島拓也)



プログラム内容

- ★3回の観劇、3回の観能、各レクチャーに参加する(観劇・観能及び受講は全て無料)
- ★修了後、報告エッセイを書く

すべての舞台は鑑賞の手引き + 観劇／観能 + レクチャー の3つのステップで楽しめます。



レクチャー講師

- 中村唯史** | なかむら・ただし
1965年北海道生まれ。京都大学文学研究科教授。共編著に『再考ロシア・フォルマリズム』、『映像の中の冷戦後世界』、『今、ソ連文学を読み直すとは』、『ロシアの南』他。翻訳にトルストイ『ハジ・ムラート』、ゴーリキー『二十六人の男と一人の女』、パーベリ『オデッサ物語』、グロスマン『トレプリンカの地獄』(共訳)、ペレーヴィン『恐怖の兇』他。
- 飯島雄太郎** | いいじま・ゆうたろう
1987年東京生まれ。出版社勤務を経て、現在京都大学博士課程在籍中。専門は近現代ドイツ文学。2008年『三人姉妹』で地点と出会い、アンダースロー開場時からスタッフとして関わる。今回のプログラムでは観客がある作品と出会った際にどのように自分の中の関心と結びつけていくかを体現する〈観客代表〉のナビゲーター役をつとめる。
- 森山直人** | もりやま・なおと
1968年東京生まれ。京都造形芸術大学芸術学部舞台芸術学科教授、同大学舞台芸術研究センター主任研究員、及び機関誌『舞台芸術』編集委員。KYOTO EXPERIMENT (京都国際舞台芸術祭) 実行委員長。著書に『舞台芸術の魅力』(共著、放送大学教育振興会) など。主な論文に、『日本現代演劇史』という「実験」——批評的素描の試み(『舞台芸術』22号) 他多数。
- 田茂井廣道** | たもい・ひろみち
1970年生まれ。観世流シテ方能楽師。幼少より河村晴夫長じて13世林喜右衛門に師事。公益社団法人能楽協会社員、同京都支部常議員、同教育特別委員。京都芸術センター主催「素謡の会」[T.T.T. (トラディショナル・シアター・トレーニング)] ナビゲーター及び講師。観劇観能エクステンジ・プログラムへは2018年度に引き続き参加。
- 天野文雄** | あまの・ふみお
1946年東京生まれ。京都造形芸術大学舞台芸術研究センター所長。大阪大学名誉教授。観世寿夫記念法政大学能楽賞、日本演劇会河竹賞などを受賞。著書に、『世阿弥がいた場所—能大成期の能と能役者の環境』『能に憑かれた権力者—秀吉能楽愛好記』『翁猿楽研究』『現代能楽講義』など。観劇観能エクステンジ・プログラムへは2018年度に引き続き参加。
- 藤田隆則** | ふじた・たかのり
1961年山口生まれ。能をはじめとする日本の中世芸能および宗教儀礼の、音楽的側面を中心とした様式研究、および、古典音楽・芸能の伝承・教授システムの研究を行う。ミシガン大学日本研究センター招聘教授等をへて、2005年より京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター助教授。2012年より教授。

現代演劇

- 地点『三人姉妹』**
ナビゲーター：中村唯史
観劇：8月22日(木)～25日(日) 19:30(8/25のみ15:00)開演
会場：京都芸術センター(京都市中京区)
- 地点『ハムレットマシン』**
ナビゲーター：飯島雄太郎
観劇：10月24日(木)～31日(木) 開演時間未定
会場：THEATRE E9 KYOTO(京都市南区)
- KUNIO15『ギリクス』**
ナビゲーター：森山直人
観劇：11月10日(日) 11:00開演(予定)
会場：京都芸術劇場春秋座(京都市左京区)

ロシアの劇作家アントン・チェーホフの最高傑作とも言われる『三人姉妹』。地点の演出では、四幕の原作を75分の一幕劇に大胆に変更、大きな事件が起こらず『静劇』とも形容されるチェーホフ戯曲を思いもよらない激しさで表現しています。120年前に書かれた戯曲が現代にどう甦るのか。読み物としての原作戯曲と上演の違いから、言葉と演劇について考えてみましょう。

「ロシアの文化とチェーホフ劇—(銀の時代)からソ連期まで」
8月31日(土) 19:00-21:00
会場：アンダースロー

言わずと知れたシェイクスピアの『ハムレット』をモチーフに、東西に分断されていたドイツで活躍した劇作家ハイナー・ミュラーが書いたテキストが『ハムレットマシン』です。断片的な、たった15ページのテキストは「上演不可能」とも……？ 一つの言葉から様々なイメージを取り出し、どう連鎖させていくか。物語から切り離された即物的な言葉が、演じる俳優の身体をメディアとして集積していく……。演劇ならではの体験を試してみませんか？

「翻訳空間としての劇場」
日時未定(10月24日以降、11月上旬までに実施)
会場：未定

演出家・杉原邦生によるカンパニー「KUNIO」の最新作はなんと10時間超の大作。『ギリクス』は英国人演出家ジョン・バートンと翻訳家ケネス・カヴァンダーが、10本のギリシア悲劇を再構成した舞台作品です。「戦争」「殺人」「神々」の全三部からなる、人類史・世界史を考えずにはいられない壮大なスケール。いくつもの作品を続けて見る能の公演に比べると上演時間の短い現代演劇ですが、10時間の観劇のはてには、何が見えるのでしょうか？

「ギリシア悲劇と現代日本」
11月12日(火) 19:00-21:00
会場：アンダースロー

能楽

- 道の会『屋島』『石橋』**
ナビゲーター：田茂井廣道
観能：10月19日(土) 11:00開演
会場：京都観世会館(京都市左京区)
- 金剛定期能『江口』『大蛇』**
ナビゲーター：天野文雄
観能：11月24日(日) 13:30開演
会場：金剛能楽堂(京都市上京区)
- 林定期能『忠度』『春日龍神』**
ナビゲーター：藤田隆則
観能：12月8日(日) 12:30開演
会場：京都観世会館

能楽師の修行において節目となる演目を初めて上演することを「披き(ひらき)」と言います。無事に演じることで技量を認められ、演者として「一回り大きく」なるのです。そんな特別な舞台を鑑賞してみませんか？ 今回の公演ではナビゲーターをつとめる田茂井廣道先生による重習(おもならい)の『屋島』が上演されます。大事な節目をお祝いムードに包まれる能楽堂で、親から子へ、師匠から弟子へと受け継がれていく能楽の伝統と修行のプロセスに迫ってみましょう。

「能楽師の修行のプロセス」
9月30日(月) 19:00-21:00
会場：アンダースロー

謡本と言われるテキストを携えての鑑賞も観能のスタイルとしては一般的ですが、能はたんに物語を伝えるためのものではないと天野文雄先生は言います。かといって、パフォーマンスがテキストよりも常に優位ということでもありません。能のテキストを丁寧に読むと、その〈作意〉や〈趣向〉を読み取ることが出来ます。より深く作品世界を理解することが、能楽堂での新しい発見をもたらす……。その醍醐味をおぼえたら、能楽鑑賞はやめられない！

「能の(作意)と(趣向)を考える」
11月19日(火) 19:00-21:00
会場：アンダースロー

「能の音楽的基盤～声と主体の変容」
12月3日(火) 19:00-21:00
会場：アンダースロー

全回参加はむずかしい、でも、私も参加してみたい……という方へ！
すべての演目で手引き+鑑賞+レクチャーの一連の参加を受け付けます。
*金額にはチケット料金・鑑賞の手引き・レクチャー 受講料が含まれます。
*お申込みは随時受付。地点▶ <http://chiten.org/> TEL. 075-888-5343

地点「三人姉妹」 一般¥4,200 / 学生¥4,000	地点「ハムレットマシン」 一般¥4,200 / 学生¥3,200	KUNIO15「ギリクス」 料金未定
道の会「屋島」「石橋」 一般(1階指定席) ¥9,000 (2階指定席) ¥6,000 学生(2階席のみ) ¥4,000	金剛能楽堂「江口」「大蛇」 一般 ¥6,000 / 学生 ¥3,500	林定期能「忠度」「春日龍神」 一般 ¥5,500 / 学生 ¥3,500